

営農技術情報

発行 令和3年4月20日

第4号

たいせつ農業協同組合

営農部 農産販売課

本所 営農センター 57-2357

支所 営農センター 87-4111

今年の育苗巡回について

昨年はコロナウィルスの影響で中止しておりましたが、本年は4月22日から5月14日までの期間で育苗巡回致します。巡回時は、短時間の滞在とし、2人1組を基本にマスク着用の上で行いますが、未だコロナウィルスの影響もありますので、**巡回を希望しない方につきましては、事前に農産販売課（57-2357）までご連絡下さい。**

日付	4月21日 (水)	4月22日 (木)	4月23日 (金)	4月24日 (土)	4月25日 (日)	4月26日 (月)
天気	晴時々曇	曇時々晴	晴時々曇	曇時々晴	曇時々晴	曇時々晴
気温 (°C)	10 1	11 0	14 0	16 2	13 1	14 2
降水 確率 (%)	0	20	10	40	40	20

適切な育苗管理・ハウス管理で健康な苗作りに努めましょう。

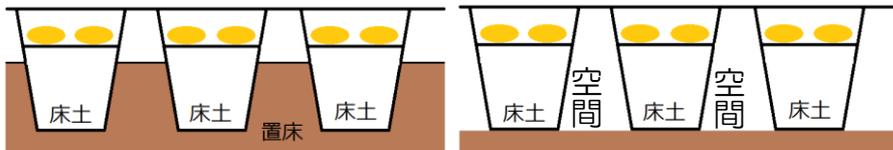
◀は種直後～1.5葉期までの育苗ポイント▶

- ◇置床出芽の芽は徒長を防ぐために70%程出芽したら、二重被覆を取り除きます。
- ◇出芽～1.5葉期までは、苗の育っている場所の温度が10℃以下にならないよう、二重トンネルなどで保温しましょう。
- ◇特に「成苗ポット」はポット表面の温度が上がりやすいので注意しましょう。

育苗期間	は種～出芽前	出芽揃～1.5葉期
適温	30～32℃	20～25℃
ハウス換気温度	35℃以上	25℃以上
温度測定場所	籾の位置 (地温)	葉先近く
灌水のポイント	過剰灌水は避ける	早朝に一回十分灌水し、床土の過湿を避け過剰灌水はしない
二重トンネル	夜間使用（夜温を10℃以上に保つ）	



置床鎮圧を実施している場合、ポットの周りに空間があるため、地温が上がりやすいので、注意が必要です。



☆育苗期間の病害と対策

◎急激な温度変化や発根不良によって病害の発生が多くなるので注意しましょう。

病原菌の種類	病状と特徴、見分け方	耕種的な防除対策
赤カビ (フザリウム菌)	<ul style="list-style-type: none"> ・籾を中心に白～淡紅色のカビ発生 ・地際部、根が枯死し、生育不良 ・萎凋、枯死し籾や根が紅色になる 	<ul style="list-style-type: none"> ・過湿状態を避ける ・夜間保温に努める(10℃以下で赤カビ、ムシ苗の発生が多くなる)
ムシ苗 (ピシウム菌)	<ul style="list-style-type: none"> ・急激に葉が巻き針状に萎凋、枯死 ・発生は鉢状、根は見られない ・地際部は水浸状褐変腐敗 	<ul style="list-style-type: none"> ・高温管理を避け徒長させない ・発根促進に努める
白カビ (リゾプス菌)	<ul style="list-style-type: none"> ・床土表土、籾層に白色のカビ発生 ・蔓延すると発芽、発育不良となり根は短く、根数も少ない 	<ul style="list-style-type: none"> ・軽度の白カビは、土壤の乾燥で蔓延を防止する。 ・適正播種量を守る ・明年に向けては、土壤を適正な pH へ調整し、排水対策を講じる。

「余り種子」がある方は、ご連絡をお願いします！

播種後、余り種子が出ましたら、農産販売課（57-2357）までご連絡頂きますよう、ご協力お願い致します。
なお、2～3日JAより引取りの連絡がない場合は、処分して頂いて構いません。

